

# インフラツーリズムの 更なる拡大に向けて

国土交通省 総合政策局 公共事業企画調整課

## 1. はじめに

インフラは、私たちの生活に密着した存在であり、地域の経済活動を支える上で不可欠な基盤である。自然災害の多い日本で安全で豊かな暮らしを生み出すため、これまで、それぞれの地域・土地の特性に合わせたインフラ整備が進められ、さまざまな技術が活用されてきた。

そうしたインフラが持つ機能美や存在感には根強いファンが存在しており、施設本来の用途以外の役割として、近年ではインフラ施設そのものを観光資源として活用する「インフラツーリズム」が注目されている。

「インフラツーリズム」は、多くの方々にインフラの役割や魅力について理解を深めていただけるほか、インフラという地域資源を活用して地域経済を活性化することも可能であり、その推進の社会的意義は大きい。

本稿では、国土交通省で取り組んでいるインフラツーリズムについて、2023年10月に公表した「インフラツーリズム拡大の手引き -改訂版-」とこれまでの取り組みを、各地で実施されている具体的な事例を交えて紹介する。

## 2. インフラツーリズム拡大に向けた 取り組み

### (1) インフラツーリズム展開の経緯

国土交通省では、以前から土木広報の一形態として現場見学会を行ってきた。現場見学会でも、普段入ることができないインフラの内部や、その時しか見られない工事中の風景など非日常の体験ができた。しかし、インフラ管理者による社会貢献・教育事業として位置付けられることが多く、旅行商品として企画するマンパワーやノウハウの不足が課題となっていた。また、観光目的の多様化や体験価値を重視する市場のニーズを受けて、地域と連携してインフラを観光資源としてより積極的に活用する「インフラツーリズム」を推進している。

国土交通省では、2016年からインフラツーリズムを紹介するポータルサイトを立ち上げ、広く魅力を発信している。また、2018年11月に「インフラツーリズム有識者懇談会（以下、「懇談会」という）」を設立した。懇談会では図-1のように、インフラを観光資源として活用し、インフラツーリズムの付加価値を高め、地域や民間と連携した新たな段階に育て展開していくために必要な方策について、幅広く議論を進めている。

インフラツーリズムの取り組みも7年が経過し、

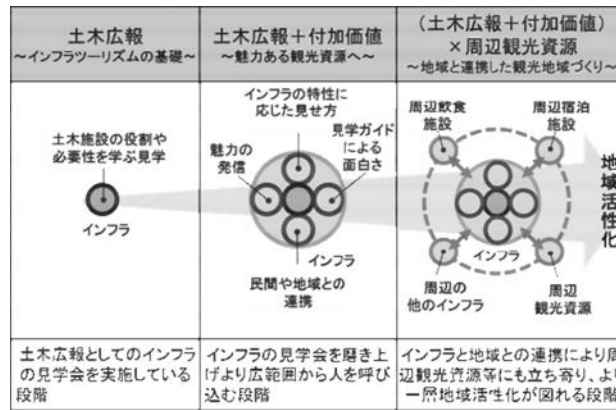


図-1 インフラツーリズム拡大に向けた考え方

後述する「インフラツーリズム魅力増進プロジェクト」によるモデル地区をはじめとして、インフラ施設の魅力を活かし、来訪者を集める施設や地域の活性化事例が創出されている。

(2) インフラツーリズム拡大の手引き（試行版，改訂版）

2019年3月に、それまでの懇談会における議論を踏まえ、インフラツーリズムを推進している先進事例からインフラの魅力を引き出す工夫を調べ、「インフラツーリズム拡大の手引き - 試行版 -」として取りまとめ、ホームページ上で公開した。従来、土木広報として行われてきたインフラの現場見学会にどのように“+αの付加価値”を付け加え、インフラツーリズムとして持続的に展開していくかを「勘所」として整理している。

また、2023年10月には、懇談会における議論や後述する「インフラツーリズム魅力増進プロジェクト」によるモデル地区の実践をとおして得た知見等を踏まえ、インフラツーリズムの拡大に向けて必要となる取組項目やその工夫点等を「インフラツーリズム拡大の手引き - 改訂版 -」（図-2）として取りまとめた。

改訂版の第2章では、インフラツーリズムの拡大に向けて、取組事項をチェックリストとして整理している。取組事項は、図-3のように戦略の策定や体制構築、受入環境の整備やコンテンツ造成など全8事項を設定、各事項において難易度や優先度を鑑み、「基礎的な取組み」と「発展的な



図-2 インフラツーリズム拡大の手引き -改訂版-

取組み」について記載している。また、インフラ施設ごとにチェックリストを踏まえて優先度の精査を行った上で、取組みを実践してもらう構成となっている。第3章では、前記チェックリストの8事項全ての取組内容について、詳細かつ分かりやすく解説している。

(3) インフラツーリズム魅力増進プロジェクト

懇談会では、インフラツーリズムのより一層の拡大を目指して、2019年7月に「インフラツーリズム魅力増進プロジェクト」を立ち上げた。本プロジェクトでは、懇談会での議論を踏まえて全国のインフラ施設からモデル地区を選定、各地区におけるインフラツーリズムの取組みを推進し、そこで得られた知見を全国の他のインフラ施設へ展開していくことを目的とした社会実験を実施し

取組事項		取組みの内容		
1	 <b>戦略の策定</b>	<input type="checkbox"/> <b>現状の把握</b> ・地域の観光資源を把握している ・施設の来訪者数や年齢等の質性を把握している	<input type="checkbox"/> <b>事業目標の設定</b> ・実現したい定性目標や数値目標が設定されている	<input type="checkbox"/> <b>事業スケジュールの明確化</b> ・事業目標の実現に向けて、必要な事業展開の方向性とスケジュールが定まっている
2	 <b>体制構築</b>	<input type="checkbox"/> <b>会議体の組成</b> ・関係者と合意形成を図れる会議体がある	<input type="checkbox"/> <b>業務分掌の明確化</b> ・事業主体と事業関係者との役割分担がなされ、責任の所在が明確化している	<input type="checkbox"/> <b>適切な要員の確保</b> ・各組織が担当する業務において適切な要員が確保されている
3	 <b>情報発信プロモーション</b>	<input type="checkbox"/> <b>情報発信可能な媒体を有する</b> ・取組主体が施設の情報やアクセス等の基礎情報の発信が可能なウェブサイトやSNS等の媒体がある	<input type="checkbox"/> <b>情報鮮度を保つ工夫</b> ・様々な情報の発信や更新が高頻度でなされている状態且つ、それを行う要員が確保されている	<input type="checkbox"/> <b>双方向性のある情報発信</b> ・例えば、来訪者と施設管理者がSNSを通して対話できる等、ウェブを通じてコミュニケーションが取れる状態
4	 <b>受入環境の整備(ハード)</b>	<input type="checkbox"/> <b>最低限必要な施設の整備</b> ・安全対策上必要な柵の設置や貸出用の備品、駐車場等が整備・用意されている	<input type="checkbox"/> <b>コンテンツの魅力最大化するハード整備</b> ・提供コンテンツに合わせ来訪者の満足度向上と安全対策が両立する整備がされている	<input type="checkbox"/> <b>来訪者の特性に合わせたハード整備</b> ・多言語の案内版やバリアフリー対応等の整備
5	 <b>受入環境の整備(ソフト)</b>	<input type="checkbox"/> <b>予約受付体制の整備</b> ・来訪者の見学会の申込みに際して、予約管理可能な体制やウェブサイトが構築されている	<input type="checkbox"/> <b>決済ツールの整備</b> ・来訪者目録で、現金決済以外の決済ツールの整備を行える状態	<input type="checkbox"/> <b>コーディネート機能の充実</b> ・来訪者の観光目的やニーズに合わせ、コンテンツのコーディネートができる状態
6	 <b>ガイドの整備</b>	<input type="checkbox"/> <b>ガイドの役割の明確化</b> ・見学会等において管理事務所の職員以外がガイドを行う際に、外部のガイドが担う役割が明確化している	<input type="checkbox"/> <b>ガイド体制の整備</b> ・見学会の運営に際し、地域のガイド協会等との連携が図られている	<input type="checkbox"/> <b>ガイドのクオリティ管理</b> ・担当するガイドによって差が生まれないよう、案内内容の統一化等が図られている
7	 <b>コンテンツ造成</b>	<input type="checkbox"/> <b>基礎情報のタリフ化</b> ・最少権限人員や料金等のコンテンツの基礎情報が一元的にまとまっている	<input type="checkbox"/> <b>多目的・多機能化</b> ・来訪者の多様なニーズに対応できるよう、コンテンツのバリエーションが豊富にある状態	<input type="checkbox"/> <b>高付加価値化</b> ・来訪者の満足度が向上するため、コンテンツの磨き上げが行われている
8	 <b>販路構築</b>	<input type="checkbox"/> <b>販売チャネルの構築</b> ・DMOや旅行会社、OTA等の様々な販売窓口に対して商品を提供し、販売いただける状態になっている	<input type="checkbox"/> <b>適切な在庫管理</b> ・商品の販売に際し商品在庫を一元的に管理可能な体制やシステムを有している	<input type="checkbox"/> <b>販売価格の管理・調整</b> ・様々な窓口を通して商品の販売を行うにあたり、価格の管理を行えている状態

図-3 インフラツーリズム拡大の手引きのチェックリスト

ている。

モデル地区は、2019年に5地区（鳴子ダム，ハッ場ダム，天ヶ瀬ダム，来島海峡大橋，鶴田ダム），2020年に2地区（白鳥大橋，新日下川放水路）を選定した。2023年3月に4地区（鳴子ダム，ハッ場ダム，来島海峡大橋，白鳥大橋）では、地域が主体となったツアー体制が構築されたことから、モデル地区としての社会実験を終了した。

それまでの社会実験の課題として、①インフラ施設の分野がダムや橋梁に偏りがあり、②地域と連携した集客性・収益性のある取組事例が少ないことがあった。そこで、新しい分野のインフラ施設も視野に入れ、地域との連携が期待できるかという観点で検討し、2023年8月に新たに3モデル地区（青い池〔美瑛川ブロック堰堤〕と十勝岳火山砂防情報センター，大源太川第1号砂防堰堤，亀の瀬地すべり対策）を選定した。

それぞれのインフラ施設の分野は、砂防施設や地すべり対策施設で地域連携が期待できる箇所と

なっている。図-4は、現在社会実験を行っているモデル地区を示している。

#### (4) モデル地区での取組み


モデル地区においては、持続的なインフラツーリズムの実現に向けて、各地域で主体的にさまざまな取組みを進めている。具体的には、各地区において現地協議会を立ち上げ、国や地方自治体に加えて地元の観光協会，民間事業者等，さまざまな関係者を交えてインフラツーリズムに関する議論を行っている。

現地協議会では、インフラツーリズムのターゲット層の設定や、販売を目指すコンテンツの造成を行い、インフラ施設を周辺地域とあわせて観光資源として発展させるための検討を行っている。更に、造成したコンテンツに対して、専門家や一般消費者から意見をもらうためのファミツアー（下見招待旅行）およびモニターツアーを実施し、ツアーの魅力度の検証，改善点の把握を行っ




あまがせ  
**天ヶ瀬ダム**【京都府宇治市】

- ・宇治市街地に近接
- ・立地を活かし、DMOと連携したツアー造成、淀川水系支流の高山ダムとの組み合わせなど**広域連携モデル**




つるた  
**鶴田ダム**【鹿児島県薩摩郡さつま町】

- ・九州最大の重方式コンクリートダムで水位低下時には明治期の発電所遺構が出現
- ・霧島連山や桜島等の**広域周遊モデル**




くさかがわ  
**新日下川放水路**【高知県高岡郡日高村】

- ・日本最長級(5.3km)かつ高度な技術が必要とする水路トンネルを現在工事中
- ・仁淀ブルー等の観光資源との連携を進めるとともに、工事現場の見学を通して、放水路、調整池等のインフラ施設と水害の関わり、歴史を紹介・学習する**工事段階から管理段階への移行モデル**




ひまいがわ  
**青い池**【美瑛川ブロック堰堤と十勝岳火山砂防情報センター】**【北海道上川郡美瑛町】**

- ・十勝岳の火山泥流から美瑛町を守るブロック堰堤により青い池が形成された有名観光スポット。
- ・ジオパークと連携し、火山との共生をテーマに学習する**観光地との連携モデル**



だいげんたがわ  
**大源太川第1号砂防堰堤**【新潟県南魚沼郡湯沢町】

- ・昭和14年に完成したアーチ式砂防堰堤で登録有形文化財、選奨土木遺産。
- ・砂防施設をツーリズムとして見せるための検討を進めるとともに、**周辺観光資源を組み合わせた連携モデル**



かのせ  
**亀の瀬地すべり対策**【大阪府柏原市・奈良県生駒郡三郷町】

- ・全国有数の大規模な地すべり対策事業で、集水井や排水トンネルの見学が可能。
- ・龍田古道や明治時代の鉄道トンネルなどを組み合わせ、歴史を紹介
- ・学習する**既存見学会の発展モデル**




図-4 モデル地区の概要

ている。

こうしたツアーの実施にあたっては、社会実験後においても地域で持続可能なインフラツーリズムの運営体制を確保していくために、実際の予約の手配やプロモーション手法、収支計画等も含めて検討している。また、持続可能なインフラツーリズムの運営体制の構築において重要であるの

が、来訪者の増加や土日開放に対応するための要員の確保である。

通常の現場見学会では、施設管理職員がガイドを務めることが多いが、各モデル地区では、施設職員への負担を減らすために、施設管理者と民間事業者の間で合意形成(協定など)を行い、施設の使用や安全管理、現場の案内を民間事業者が行う体制を目指している。また、ガイド育成のための研修やガイドマニュアルの作成にも取り組んでいる。

#### (5) モデル地区でのツアー体制の構築

社会実験を終了したハッ場ダムや白鳥大橋、来島海峡大橋や鳴子ダムでは、アクティビティーやツアーが定期的で開催されており、ハッ場ダムでは水陸両用車によるダム湖の遊覧、白鳥大橋では吊り橋の主塔への登頂が可能である(写真-1, 2)。ご都合があった際は、ぜひ参加してほしい。



写真-1 ハッ場ダムでの水陸両用車によるダム湖遊覧



写真-2 白鳥大橋の主塔ツアー

### (6) インフラツーリズムポータルサイト

国土交通省では、前述したモデル地区での取り組みに加えて、インフラ施設・ツアーの魅力をもっと広く知ってもらうために、全国のインフラ施設やツアー情報をまとめたインフラツーリズムポータルサイト（図-5）を開設し、定期的なツアー情報の発信を行っている。

また、ポータルサイトでは、インフラツーリズムの魅力を紹介する動画や明治期の公共土木施設など、さまざまな情報を掲載している。

## 3. おわりに

国土交通省では、従来の単なる土木広報としての現場見学会から、地域振興を目指したインフラツーリズムの拡大に向け魅力倍増プロジェクトや手引きの改訂などに取り組んできた。引き続き、既存のモデル地区や新しく選定したモデル地区でノウハウを取得し、今後も地域と連携したインフラツーリズムを推進していきたい。



(<https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/region/infratourism/>)

図-5 インフラツーリズムポータルサイト